

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目		自己 評価	外部 アンケート等			
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合が、85%以上である。	・積極的に声をかけをするなど、日頃から生徒の様子に注意を払い、学校生活を支える。 ・アンケートによる実態把握を行う。	A	A	A	・「楽しく学校生活が送れている」と回答した生徒は、2回の調査ともに85%以上であり、落ち着いた雰囲気の中で、学校生活に取り組んでいる様子が見られた。授業改善や行事の充実などにより、生徒達にとっての大切な居場所として、学校運営をしていく。 ・「学校行事に積極的に参加している」と回答した生徒は、1回目の調査では90%であったが、2回目は79%となった。生徒会行事などでは、役員が意見を出し合い、魅力的な行事にするべく活動したが、他生徒との温度差も多少感じられた。来年度に向けて生徒・職員間での活発な意見交換や、生徒同士が協働する活動を増やすことなどで、各行事のさらなる活性化を図る。 ・「ふれあいの時間に積極的に取り組んでいる」と回答した生徒は、2回の調査ともに90%以上となった。今年度から2期制を始めたが、生徒は授業の進め方をよく理解し、活発に取り組んだ。各期末の成果発表には改善の余地があり、今後検討していく。	・定時制の生徒ひとり一人に寄り添い、生徒と教員間、生徒同士間に信頼関係が構築される指導を継続していただきたい。 ・学校行事や異学年間の交流など、生徒が生き生きと学校生活を送り、楽しむための機会を今後も定期的に設定していただきたい。
		② 球技大会や地区体育大会などの特色ある学校行事に、生徒の85%以上が満足している。	・生徒会行事では、生徒会役員を中心とした企画の立案・運営を実践する。 ・地区内の定通制高校との連携を強化する。 ・アンケートによる実態把握を行う。	B	B	B		
		③ 総合的な探究の時間（「ふれあいの時間」）に、主体的に取り組んでいる生徒の割合が、85%以上である。	・「ふれあいの時間」では他学年の生徒との交流や、各自が設定したテーマに沿って積極的な活動ができるように支援する。 ・アンケートによる実態把握を行う。	A	A	A		
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④ 授業に対する生徒の評価を実施して、授業改善を推進する。「授業が分かりやすい」と回答する生徒の割合が85%以上である。	・生徒の実態に応じた協動的な学習（学び合い学習）を実践する。 ・カウンセリングマインドに立った授業改善に努める。 ・ICTの活用を推進する。 ・アンケートによる実態把握を行う。	A	B	A	・「授業がわかりやすい」と回答した生徒は、2回の調査ともに85%以上であった。ふれあいの時間及びその他の行事等で前向きな視点を生徒が持ち、教員側も生徒をよく観察してコミュニケーションを取っているため、生徒個々の実態に応じた指導ができていく。今後は各教科で節ごとの評価に対応できるよう、協動的な学習とICT活用をより一層進めることで、生徒の学習改善ひいては授業改善につなげていく。 ・商業科として専門知識の習得及び各種検定試験に合格する体験を継続して積ませ、一人ひとりの生徒が自信をもって進級、卒業できるよう丁寧に指導ができていく。「社会で役立つ知識や技能が身につく授業が行われている」と回答した生徒は2回ともに90%以上であり、全教科で実社会とのつながりを意識した授業を実践していきたい。 ・定期テストや検定試験の前に学習すると回答した生徒は、第2回調査では86%と改善が見られた。来年度の授業では、学習時における手立てと導き方をより明確化することで、生徒の主体的な学習活動の充実と学習内容の定着を図っていきたい。 ・2学期末で成績不振科目のある生徒が25%超であり、目標の上限値を大幅に超えてしまった。学習内容の高度化と多欠席生徒の増加が要因と考えられる。生徒の生活改善の方策等を職員間で共有し指導するとともに、ICT活用により、生徒の学習状況や理解度に応じた個別指導を同時展開できるよう準備していきたい。	・商業科の生徒として、資格取得等の具体的な目標に向かって努力することの大切さについて、引き続き指導していただきたい。 ・スクールポリシー（カリキュラムポリシー）にも関連するが、生徒の主体的な学びを促し、新たな学びに挑戦する力を育ててほしい。
		⑤ 簿記や情報など資格取得に向けた指導に生徒の85%以上が満足している。	・各種検定試験合格に向けた授業等を工夫する。 ・生徒の実態に応じて、補習や課題を実施する。 ・アンケートによる実態把握を行う。	A	B	A		
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑥ 定期テストや検定試験のために学習をする生徒の割合が、85%以上である。	・学習の基礎・基本の定着のための授業内容及び指導法の改善を図る。 ・定期試験直前や試験中の家庭学習を促す指導を継続する。 ・アンケートによる実態把握を行う。	A	B	A		
		⑦ 成績不振科目のある生徒の割合が10%未満である。	・単位の履修・修得の重要性を認識させ、不振科目をなくすための指導を、各学期ごとに全校集会等で行う。	D		D		
		4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧ 職員打ち合わせ等において、生徒に関する情報交換を毎日実施している。	・毎日の職員打ち合わせや毎月の連絡調整会議等において生徒に関する情報交換を行い、全職員間での共通理解を図る。	A			
⑨ 学校の生活指導（あいさつ、頭髪・服装、遅刻・早退指導等）が適切であると回答する生徒・保護者の割合が90%以上である。	・全生徒が充実した学校生活を送ることができるよう丁寧に指導・支援を継続する。 ・生徒及び保護者を対象としたアンケート調査により実態を把握する。		A	A	A			
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑩ 「学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取り組みを積極的に行っている」と認識している生徒が90%以上である。	・月1回の「生活アンケート」や定期的な個人面談等を実施し、その結果を毎日の職員打ち合わせや毎月の連絡調整会議において全職員で共有することで、全職員で全生徒を指導する体制を確立する。 ・SNSの適切な利用法に関する教育、情報モラル教育を強化する。	A	A	A	・毎月1～2回の「連絡・調整会議」を行い、教職員の共通認識と組織的な連携を図り、生徒指導・学習指導について対応を行うことができた。また、毎回の会議で生徒の情報共有を行い、教職員が生徒一人ひとりの状態を的確に捉えて、充実した学校生活が送れるように協力して取り組むことができた。本校の生活指導については、生徒・保護者ともに90%以上が適切であると回答し理解を示しているが、今後も生徒の気持ちに寄り添った丁寧な指導を心がける。 ・毎月1回の「生活アンケート」を実施して、「いじめ」の早期発見・早期対応・未然防止に努めることができた。また、生徒や外部から「いじめ」の可能性がある情報が入ったケースでは、管理職・生活指導係・教育相談係・該当生徒のクラス担任とが話し合い、役割を分担して迅速かつ組織的に対応することができた。また、「個別面談」を各学期毎に年間3回実施して、「いじめ」を含む悩みや目標の設定について等、幅広く聞き取りを行い実態調査をすることができた。2学期以降いじめは認知されていないが、今後もいじめや嫌がらせ行為が疑われる場合は、迅速かつ組織的に対応する。	・生徒のために職員一丸となって指導にあたっていたり、感謝している。今後は更なる組織力の向上に期待したい。 ・生活アンケートの実施や日頃からの生徒観察による声掛け等、生徒が気軽に相談しやすい体制を整えており、いじめの早期発見にもつながっている。いじめが認知された場合は、早期に組織的な対応をお願いしたい。 ・SNSによるやりとりが、いじめや事故につながることはないよう、家庭とも連携して御指導いただきたい。 ・新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い、毎日の登校時指導・健康観察が終了したため、生徒を観察する機会が減っていると考えられる。HRにおける健康観察等を徹底するとともに、生徒の異変に気づいた場合は早期に職員間で情報共有を図るなどとして、職員間の連携を密に取っていただきたい。
		⑪ いじめの解消率が100%である。	・いじめ行為が疑われる場合は、桐生市立商業高等学校いじめ防止委員会（定時制課程）が迅速かつ組織的に対応する。	A	A	A		
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑫ 欠席率が10%以下、遅刻率が5%以下である。	・欠席率、遅刻率、早退率を把握する。 ・欠席、遅刻、早退に係る家庭への迅速な連絡を徹底し、保護者に協力と理解を求める。 ・欠席の理由や背景を保護者と共通理解し、状況に応じた指導及び家庭と連携した指導の充実を図る。 ・定期的な登校時指導や遅刻防止指導を行う。	C	B	C		
		⑬ 交友関係がうまくいっていると感じている生徒の割合が、90%以上である。	・養護教諭やSCを含めた教育相談体制を確立し、生徒の立場から相談しやすい人間関係を構築する。 ・学校あるいは外部機関における相談窓口を生徒及び保護者に積極的に周知する。 ・生徒を対象としたアンケート調査により、実態を把握する。	A	A	A		
		7 計画的な指導を行っていますか。	⑭ 「自己の生き方」と「将来の職業」とを関連させた進路指導を行っている、生徒の90%以上が評価している。	・外部機関と連携した定期的な進路ガイダンスやLHRにより体系的なキャリア教育を実施する。 ・アルバイト等の就業経験を生かした進路指導を行う。	A	A		
8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑮ 進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が、80%以上である。		・個別面談を実施して各学年の段階に即した、きめ細かい指導を実践する。 ・全日制進路指導部やハローワークと連携し、情報収集を行い、進路の実現につなげる。	B	B	B		
	Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑯ 保護者面談等に積極的に参加している保護者の割合が80%以上である。	・PTA総会、保護者面談の案内・返事の確認を徹底する。 ・アンケートによる実態把握を行う。	B	A	B	・保護者面談には、ほぼ全員の保護者が参加している。PTA総会の出欠確認および委任状の提出状況は95%をこえ良好であった。実施したアンケート調査では80%の保護者が学級面談、授業参観、PTA総会に参加しようと考えている。参加しやすいような日程や時間、内容等を検討していく。 ・生徒・保護者や中学生等外部の方にも見てもらえるよう、閲覧しやすいWebページのレイアウトを心がけ、2回目のアンケート結果では改善できたと思われる。次年度も引き続き「必要な情報」「見てみたい」を心がけていきたい。
⑰ Webページの更新は速やかに行い、年間70回以上の更新をめざす。			・在校生の活動状況や入試情報等、中学生や保護者が見たい情報を発信する。	B	B	B		
⑱ Webページを見たことがある保護者の割合が80%以上である。		・Webページの更新を逐次行い、デザインを工夫する。また、重要な連絡や身近な出来事を掲載し閲覧を促す。 ・配布物にQRコードを載せ、Webページの閲覧を促す。	B	B	B			
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑲ PCやプロジェクターなどを活用し、授業を行っている教員が100%である。	・タブレットとアプリを組み合わせ、グループワークや発表においてICT機器を効果的に利用できるよう工夫する。	A		A	・ICTの効果的な活用について職員間で定期的に情報共有を図り、生徒用タブレットPCの積極的な活用による最適化を目指した授業展開となるように各授業で一層の工夫を行っている。来年度は、ICTを活用し、節ごとの評価に対応した指導と索引による閲覧のしやすさに注力して授業の資料作りを進めたい。 ・校内ネットワーク活用による会議資料のペーパーレス化や各種調査のアンケート集計等、情報の共有・可視化と業務の軽減・効率化を両立させることができた。今後は桐生市ふれあいメールも積極的に活用し、生徒・保護者と情報共有を図っていきたい。	・次世代を担う高校生が社会人として活躍できるよう引き続きICT教育を推進し、学びの質の向上にも努めていただきたい。
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑳ 校内ネットワークを通して、分掌業務でICTを活用できている教員が100%である。	・校内ネットワークを活用し、情報の共有化・可視化を図るとともに、業務の効率化を進める。 ・日程変更や緊急連絡等を桐生市ふれあいメールを活用し、情報を共有する。	A			
※各学校で必要に応じて評価対象を加える。								